

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	01	自然・環境
取組の基本方針	01	人と自然の共生

事業名	花のある街並みづくり事業
担当課	生活環境部環境室環境課

目的と事業概要	「花のある街並みづくり運動」を進めるため、自治会や高齢者クラブ等の団体、学校の花壇作りに対し支援する。
前年度までの実施内容と効果	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、高齢者クラブ等に対する支援(江別市民憲章推進協議会を通じた補助) 団体が購入する花苗代の助成 水やりや追肥などを支援するための活動協力金の交付(助成した花苗の量に応じて計算) (平成26年度 98団体、81,363株) ・小学校に対する支援 「花のある街並みづくりモデル校」に対する資材の提供 (平成26年度13校) <p>※「花のある街並みづくり」運動には参加しているが、花苗幹旋を利用していない自治会等(自前で苗を用意、宿根草を導入)は助成対象とならないという課題が生じた。</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>「活動協力金」を、花苗幹旋を利用していない自治会等にも助成できるよう制度を拡充することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花苗幹旋を利用していない自治会等が、公共性の高い自治会館、公園などの花壇、町内の幹線道路の街路柵等で花植え活動をしていることを条件とする。 ・助成額は、事前の意向調査結果に基づき、100株以上植栽している自治会等に対し、株数に応じて決定する。ただし、上限は2,000円とする。 ・現行制度の花苗幹旋を利用している自治会等に対する「活動協力金」(1株10円)の助成はそのまま継続する。

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	モデル校への花壇づくり資材等提供	23.5	25.0	25.0		25.0	
	花苗助成事業への補助金	246.3	270.8	270.4	△0.4	270.4	
	活動協力金補助金		82.0	83.9	1.9	83.9	
計		269.8	377.8	379.3	1.5	379.3	
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他		7.0		△7.0		
	一般財源	269.8	370.8	379.3	8.5	379.3	
主な増減理由(前年比)							
<p>今回の制度拡充による活動協力金補助金の増額 (「花のある街並みづくり運動」に参加するが花苗幹旋を利用しない団体) 過去の実績を参考に、団体数を10、株数は幹旋利用団体の標準株数の200株とし、 支出増は1株10円×200株×10団体=20,000円と積算した。</p>							
査定内容							

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	02	産業
取組の基本方針	02	商工業の振興

事業名	商工業活性化事業
担当課	経済部商工労働課

目的と事業概要	<p>中小企業者等が商工業活性化のために行う事業に対して補助し、地域経済活性化を図る。</p> <p>【支援メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イベント事業」ー地域経済の活性化を目的としたイベント開催支援 ・「研修・研究活動事業」ー地域経済活性化や若手リーダー育成に資する研修・研究会開催、従業員の能力向上を図る研修受講支援 ・「地域資源による製品等開発事業」ー地場産素材を使用し、地域の特色を生かした製品、技術等の開発支援 ・「見本市等出展事業」ー市場開拓や販路拡大のための物産展、見本市等出展支援 ・「共同情報発信事業」ー企業間交流や商店街情報など情報発信支援 ・「商店街建築協定推進事業」ー商工業活性化に資する建築協定に基づきレンガ等を活用した建築支援
前年度までの実施内容と効果	<p>平成26年度実績(10月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イベント事業」ー商店街、市内事業者や大学生が主催する地域活性化イベント等に支援(10件:304.2万円) ・「研修・研究活動事業」ー中小企業大学校旭川校研修受講や販路拡大等研修会開催等に支援(6件:16.1万円) ・「見本市等出展事業」ー道内外商談会出展に支援(2件:41.6万円) ・「商店街建築協定推進事業」ー商店街建築協定に基づくレンガ等を活用した建築に支援(2件:8.8万円)
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>「地域資源による製品等開発事業」の利用促進について。</p> <p>「地域資源による製品等開発事業」は、江別市の産業発展や地場産素材のPRのため必要な取り組みと考えているが、利用が低迷していることから、利用促進や事業活性化について幅広い意見を募集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○補助対象者 市内に事務所または事業所を有し、事業を行う団体または個人 ○補助対象経費 事業実施に必要な直接経費 ○補助率 補助対象経費の1/2(上限額40万円)

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
・イベント事業		310.6	250.0	300.0	50.0	300.0	
・研修・研究活動事業		34.4	80.0	80.0		40.0	△40.0
・地域資源による製品等開発事業		46.9	60.0	40.0	△20.0	40.0	
・見本市等出展事業		50.6	80.0	50.0	△30.0	50.0	
・共同情報発信事業			40.0	40.0		40.0	
・商店街建築協定推進事業			148.5	148.5		148.5	
・商店街景観向上施設整備事業		11.8					
計		454.3	658.5	658.5		618.5	△40.0
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他						
	一般財源	454.3	658.5	658.5		618.5	△40.0
主な増減理由(前年比)		各事業の実績に基づき予算配分を調整し、前年度同額の範囲で事業を進める。					
査定内容		研修事業のうち、実施する見込みが低い催しについて査定減					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	02	産業
取組の基本方針	03	観光による産業の振興

事業名	地域発見魅力発信事業
担当課	経済部商工労働課

目的と事業概要	江別の地域資源を掘り起し、近隣市に住んでいる子育て世代の市民や札幌市に滞在する観光客を中心に、江別の魅力発信や日帰り観光情報を提供し、江別市の知名度向上や観光客の市内への入込数を増やす。
前年度までの実施内容と効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ えべつルートマップ作成事業 近隣市の子育て世代をターゲットとして観光ルートを複数案提案するマップ(冊子)を作成し、札幌及び岩見沢市内の幼稚園・保育園ほか市外観光案内所等に配布 ○ 健康ウォーキングマップ作成事業 市内のJR駅から徒歩で回れる観光ルートマップ(観光施設やトイレの場所などを掲載したA3両面1枚)を作成。平成25年度は江別駅を、平成26年度は大森駅を起点としたルートマップ作成し札幌市内観光案内所、市内JR各駅、各公民館、体育館のほか、市内外のウォーキングイベントなどで配布 ○ えべつプロモーション広告掲載事業 札幌圏の親子の方々を対象に、地域情報誌に広告を掲載するとともに、広告と連動した親子バスツアーを開催 ○ 「江別小麦ものがたり」しおり作成 麦の里えべつブランドをPRするため、しおりを作成し、市内外に配布 ○ 美味しい江別手提げ袋製作事業 市内事業者と連携し、「食」を通じて「江別」という街を広く情報発信することで、「美味しい江別」のイメージ定着とブランド化を図るため、PR手提げ袋を製作
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>平成27年度は下記の事業を実施する予定であるが、これらに限らず、江別の地域資源の掘り起こしや魅力発信のための考え方や方法について、広く意見を募集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ えべつルートマップ作成事業 ○ 健康ウォーキングマップ作成事業 ○ えべつプロモーション広告掲載事業 ○ 「江別小麦ものがたり」しおり作成 ○ 美味しい江別手提げ袋製作事業 <p><取組み内容拡充を実施することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ノハナショウブ保存活用事業 平成26年度に寄付を受けたノハナショウブ群生地を観光振興に役立てるため、管理運営を行う。

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
ルートマップ作成		99.3	177.8	132.4	△45.4	124.1	△8.3
ウォーキングマップ作成		15.8	28.1	29.7	1.6	29.2	△0.5
プロモーション広告掲載		49.9	60.0	59.0	△1.0	59.0	
美味しい江別手提げ袋製作			20.5	25.3	4.8	25.3	
「えべつ小麦ものがたり」しおり作成事業		1.7	1.7	1.5	△0.2	1.4	△0.1
ノハナショウブ保存活用事業				62.8	62.8	62.5	△0.3
計		166.7	288.1	310.7	22.6	301.5	△9.2
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他						
	一般財源	166.7	288.1	310.7	22.6	301.5	△9.2
主な増減理由(前年比)							
新規事業としてノハナショウブ保存活用事業を実施するため増加となった。							
査定内容							
要求段階で10%を見込んでいた消費税の修正、諸経費について査定減							

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	03	福祉・保健・医療
取組の基本方針	02	健康づくりの推進と地域医療の安定

事業名	健康づくり推進事業
担当課	保健センター

目的と事業概要	<p>目的:生活習慣病の予防や健康の保持増進のために、食生活の改善や運動習慣の定着など健康づくりに積極的に取り組み、健康寿命を延伸する。</p> <p>概要:リズムエクササイズはリズムに従って筋肉の緊張と弛緩を繰り返す有酸素運動で、試行的に行った体験会でも高齢者から若い世代まで大変好評を得た運動である。さらに老若男女が楽しみながら運動できるようなエクササイズを楽曲付きで作成し、様々な場面でこの運動を取り入れていただくよう普及啓発し、健康づくりに役立てるものである。</p>
前年度までの実施内容と効果	<ul style="list-style-type: none"> ・チェアエクササイズ教室及びはつらつ教室 ・健康づくり講演会(睡眠と健康、生活習慣病、がん予防など) ・健康づくり推進員事業 ・出前健康教育・健康相談 ・愛のふれあい事業での教育・相談 ・自殺予防ゲートキーパー講座 ・食生活改善協議会への委託によるふれあいレストラン ・健康相談 等 平成25年度実績 計680回、参加延人数10,288人
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>上記取り組みに加え、以下の取り組みを実施することについて</p> <p>○健康づくりのために老若男女が楽しみながら取り組める江別市独自のリズムエクササイズを作成し普及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムエクササイズと楽曲の作成委託(DVD作成) ・リズムエクササイズの市民インストラクターの養成講座(江別・野幌・大麻地区それぞれ3回) ・リズムエクササイズ体験会の開催 ・チェアエクササイズでの体験 ・がん道民大会での発表 ・椅子に座ったまま行えるバージョンを高齢者クラブ等で普及 ・介護予防事業での実施

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	リズムエクササイズ普及(新規)			86.8	86.8		△86.8
	はつらつ教室	226.9	195.4	128.0	△67.4	128.0	
	心の健康づくり(講演会、ゲートキーパー)	119.4	79.9	79.3	△0.6	79.3	
	出前講座等	73.8	67.9	67.9		67.9	
	その他の経費	119.3	210.4	187.1	△23.3	175.9	△11.2
	計	539.4	553.6	549.1	△4.5	451.1	△98.0
財源内訳	国・道支出金		25.0		△25.0	24.3	24.3
	市債						
	その他		2.0		△2.0	25.0	25.0
	一般財源	539.4	526.6	549.1	22.5	401.8	△147.3
主な増減理由(前年比)		<p>はつらつ教室の自主サークル化による報酬及び報償費の減と、新たに江別市独自のリズムエクササイズを委託作成し普及するための委託料の増</p>					
査定内容		<p>※リズムエクササイズについては、国の地方創生交付金対象事業として、平成26年度補正予算で措置するため、当初予算はゼロとした</p> <p>・需用費の見直しにより、「その他の経費」について査定減</p>					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	03	福祉・保健・医療
取組の基本方針	04	高齢者福祉の充実

事業名	高齢者等社会参加促進バス助成事業
担当課	健康福祉部福祉課

目的と事業概要	<p>目的: 高齢者、障がい者等を支える福祉関係団体の活動及び高齢者、障がい者等の生きがいをづくり、社会参加等を支援することを目的とする。</p> <p>事業概要: 市内の福祉関係団体が、高齢者や障がい者等の生きがいをづくり、社会参加等を目的とした事業などで、バスを借り上げる際に係る経費の一部を助成する。</p>
前年度までの実施内容と効果	<p>旧事業名: 福祉バス運行管理経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で所有する福祉バスを、高齢者や障がい者等の団体及びそれを支援する団体が無料で利用することができるようにするもので、その運行管理に関する事業について、江別市社会福祉協議会に委託して実施 ・平成25年度団体利用運行日数実績(年間): 163日 ・平成25年度団体利用運行に係るバスの延べ利用団体数実績(年間): 163団体
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>事業実施に当たり、市助成額と利用者負担割合の考え方について</p> <p>助成団体の範囲及び助成回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体利用に限る。(通年利用可) ・1団体につき4回まで利用可。ただし、最低利用人数は11人とする。 ・バス借り上げは日帰りのみとする。(宿泊を伴うものは不可) ・助成するバスは、北海道運輸局長の「一般貸切旅客自動車運送事業」の許可を受けた事業者から借り上げたものに限定する。 ・事業実施後に交付申請をしたものに対し、参加人数区分に応じて定める額を助成金する。 ・定められた単価を上限として、バス借り上げに要した経費を助成するものとする。 <p>30人以上: 40,000円もしくは実費 11人以上29人以下: 35,000円もしくは実費</p>

(単位: 万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
財源内訳	【積算内訳】						
	バス利用者への補助金			593.5	593.5	772.0	178.5
	市有バス運行委託(廃止)	565.5	558.6		△558.6		
	計	565.5	558.6	593.5	34.9	772.0	178.5
	国・道支出金						
	市債						
	その他						
	一般財源	565.5	558.6	593.5	34.9	772.0	178.5
主な増減理由(前年比)							
<p>北海道運輸局公示第127号に基づく一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令により、借上げバス利用に関する費用が上がったほか、市所有の福祉バスが老朽化等によりこれ以上の運行継続が難しくなったことにより増加した。</p>							
査定内容							
<p>(要求) 163回 593.5万円 → (要求変更) 288回 1,152万円</p> <p>(変更理由) 同一日複数団体の利用が可能となることを考慮した。また、宿泊での利用を可能とした</p> <p>(査定) 772万円 H25年度利用実績を基に査定</p>							

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	04	安全・安心
取組の基本方針	03	消防・救急の充実

事業名	応急手当普及啓発事業
担当課	消防署 救急課

目的と事業概要	突然のけがや病気で、心臓や呼吸が止まってしまった場合、居合わせた市民の初期対応により、大きく救命効果が期待できる。そのため、市民一人ひとりが適切な応急手当を行うことができるよう、各種講習会を開催する。
前年度までの実施内容と効果	<p>定期的に実技講習会を実施(定員30名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通救命講習Ⅰ(年9回、3時間) 成人に対する心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)の使用法、止血法、気道異物の除去法など ・普通救命講習Ⅱ(年1回、4時間) AEDを設置している事業所等向け。講習Ⅰの内容に加え、習熟度の確認と再指導を実施している。 ・普通救命講習Ⅲ(年1回、3時間) 乳幼児に対する心肺蘇生法、AED使用法、止血法、気道異物の除去法など ・上級救命講習(年1回、8時間) 普通救命講習修了者対象。普通救命講習の再確認と傷病者の管理、搬送方法やけがの手当など <p>そのほか、市民からの依頼により、随時実技講習会や講義を中心とした一般救急講習を実施している。</p> <p>平成7年度より事業開始、平成25年末までの実技講習会受講者延べ23,011人</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】 普通救命講習Ⅰの回数を減らし、代わりに普通救命講習Ⅱの回数を増やすことについて</p> <p>現在、上記の普通救命講習Ⅰが中心となっているが、受講者やその所属する事業所からは、講習内容が身につくことが強く求められている。このため、習熟度の確認と再指導を含む普通救命講習Ⅱの回数を増やし、その分普通救命講習Ⅰを減らすこととするので意見を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通救命講習Ⅰ(年7回、3時間) ・普通救命講習Ⅱ(年3回、4時間) ・普通救命講習Ⅲ(年1回、3時間) ・上級救命講習(年1回、8時間)

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
財源内訳	【積算内訳】						
	訓練用AEDトレーナーパット他消耗品	39.1	42.0	48.7	6.7	44.0	△4.7
	訓練用機材修繕費	3.3	5.0	3.8	△1.2	3.6	△0.2
	救命講習普及ポスター	4.2	5.2	4.8	△0.4	4.7	△0.1
	計	46.6	52.2	57.3	5.1	52.3	△5.0
	国・道支出金						
	市債						
	その他						
	一般財源	46.6	52.2	57.3	5.1	52.3	△5.0
	主な増減理由(前年比)		消耗品の必要量精査による増				
査定内容		要求段階で10%を見込んでいた消費税の修正、諸経費について査定減					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	05	都市基盤
取組の基本方針	01	市街地整備の推進

事業名	大麻地区住環境活性化事業
担当課	企画政策部政策推進課 住環境活性化・公共交通担当

目的と事業概要	郊外型住宅団地の高齢化、住宅の老朽化等の課題解決に向けて、住まい相談窓口の運営、情報発信、組織づくりに向けた検討等を行う(3ヶ年計画事業)。 平成28年度からは、まちづくり運営組織等により自立的に事業を運営していくことを目標とする。
前年度までの実施内容と効果	<p><平成25年度> 郊外型住宅団地の生活環境の維持・向上に関する内閣府補助事業である特定地域再生事業を活用し、住まい相談窓口の設置、アンケート調査、ワークショップ等に係る市場調査等を実施した。</p> <p>(1)住みかえ支援等に向けた取り組み ①住まい相談窓口の運営、②セミナーの開催、③子育てアンケート調査、④事業者等へのアンケート調査</p> <p>(2)情報発信 ①活動等について情報発信するためニュースレターを配布</p> <p>(3)まちづくり活動 ①ワークショップの開催、②意見交換会の開催</p> <p>(4)事業実施に向けた検討組織の整備 ①運営協議会の設立、運営</p> <p><平成26年度> 平成25年度の調査に基づき、内閣府補助事業である特定地域再生事業を活用し、住まい相談窓口の運営、ワークショップ、セミナー、組織づくりに向けた検討等を行う。</p> <p>(1)住みかえ支援等に向けた取り組み ①住まい相談窓口の運営、②セミナーの開催、③事業者等との意見交換</p> <p>(2)情報発信 ①活動等について情報発信するためニュースレターを配布</p> <p>(3)まちづくり活動 ①ワークショップの開催、②意見交換会の開催、③コミュニティづくり等に向けたソフト事業の実施</p> <p>(4)組織づくり等に向けた検討 ①自立的な事業運営に向けた組織等の検討</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】 平成26年度の実施結果を基に方針を整理し、下記の取り組みを継続実施することについて</p> <p>(1)住みかえ支援等に向けた取り組み ①住まい相談窓口の運営</p> <p>(2)情報発信 ①活動等について情報発信するためニュースレターを配布</p> <p>(3)まちづくり活動 ①意見交換会の開催、②コミュニティづくり等に向けたソフト事業の実施</p> <p>(4)組織づくり等に向けた検討 ①自立的な事業運営に向けた組織等の検討</p>

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
相談窓口・協議会運営等委託 会議等経費		314.9	423.8 9.6	177.0	△246.8 △9.6	173.8	△3.2
計		314.9	433.4	177.0	△256.4	173.8	△3.2
財源内訳	国・道支出金	314.9	189.7		△189.7		
	市債						
	その他 一般財源		243.7	177.0	△66.7	173.8	△3.2
主な増減理由(前年比)		今後の方向性や取り組みについて検討し、過去2年間の成果を踏まえ、事業内容を絞り込み実施する。					
査定内容		要求段階で10%を見込んでいた消費税の修正					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	06	子育て・教育
取組の基本方針	01	子育て環境の充実

事業名	子ども発達支援推進事業
担当課	子ども発達支援センター

目的と事業概要	<p>目的:発達相談を通じて保護者や関係機関の職員に、様々な助言・指導を行うことで、児童の発達を支援する。</p> <p>概要:発達支援センターで行う来所相談や関係機関への巡回相談等において、児童に各種発達検査やアセスメントを実施し、保護者や職員等へ相談内容に応じたアドバイスをを行うほか、必要に応じて療育の場を紹介する。</p>
前年度までの実施内容と効果	<p>・各種相談の実施 電話相談 来所相談 発達健康診査の事後相談 保育園・幼稚園への巡回相談 特別支援教育専門家チームとして学校への巡回相談</p> <p>平成25年度相談件数(延べ) 280件 療育(福祉サービス等)を紹介した児童数 92名 発達相談を受けた結果、不安が軽減したと答えた保護者の割合 100%</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>相談支援を実施する職員を増員することについて 発達に心配のある児童への相談件数が増加しており、支援体制を充実させ、保育園・幼稚園・学校への巡回相談を充実させるなど、相談体制を強化する。</p>

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	相談員(社会福祉士等有資格者)報酬	876.3	964.9	1,161.8	196.9	1,169.0	7.2
	巡回車両経費	13.8	4.4	16.2	11.8	16.1	△0.1
	相談窓口電話料	22.1	26.2	27.9	1.7	27.9	
	その他	115.4	147.8	150.4	2.6	146.2	△4.2
計		1,027.6	1,143.3	1,356.3	213.0	1,359.2	2.9
財源内訳	国・道支出金	333.0	333.0	381.9	48.9	381.9	
	市債						
	その他		684.9	780.8	95.9	780.8	
	一般財源	694.6	125.4	193.6	68.2	196.5	2.9
主な増減理由(前年比)		<p>相談支援を実施する第2種非常勤職員の報酬増 巡回車両車検費用の増</p>					
査定内容		<p>要求段階で10%を見込んでいた消費税の修正、諸経費について査定減</p>					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	06	子育て・教育
取組の基本方針	02	子どもの教育の充実

事業名	小学校外国語活動支援事業
担当課	教育部学校教育支援室学校教育課

目的と事業概要	<p>小学校の外国語活動において、英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うこと。</p> <p>そのために、外国人指導助手を小学校に派遣する。</p>
前年度までの実施内容と効果	<p>平成23年度から、学習指導要領に基づき、小学5年生と6年生は年間35時間の外国語活動が必修となり、江別市では授業に外国人指導助手を派遣していた。</p> <p>平成26年度からは、江別市独自に市内の全小学校の3年生と4年生に、年間12時間、国際理解教育として外国語活動を実施している。この外国語活動の授業にアシスタントとして、外国人指導助手を派遣している。</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>上記の取り組みを小学校1・2年生に拡大することについて</p> <p>平成27年度からは、江別市独自に市内の全小学校の1年生と2年生で、年間12時間、国際理解教育として外国語活動を開始する。この外国語活動の授業のアシスタントとして、外国人指導助手を派遣する。</p>

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	外国人指導助手報酬	1,483.7	1,998.0	1,998.0		1,998.0	
	小学校への派遣費用、市教委への交通費		45.0	143.9	98.9	90.4	△53.5
	新規採用時健康診断費用	2.4	4.0	4.0		2.7	△1.3
	遠隔地小学校へのタクシー借上料	15.5	43.0	38.5	△4.5	38.5	
計		1,501.6	2,090.0	2,184.4	94.4	2,129.6	△54.8
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他						
	一般財源	1,501.6	2,090.0	2,184.4	94.4	2,129.6	△54.8
主な増減理由(前年比)							
外国人指導助手の交通費追加							
査定内容							
外国人指導助手の交通費、健康診断費用について査定減							

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	07	生涯学習・文化
取組の基本方針	02	ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

事業名	陶芸文化普及振興事業
担当課	郷土資料館(セラミックアートセンター)

目的と事業概要	目的:多くの市民に陶芸等に接する機会や優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供することで、陶芸文化ひいては芸術文化全般に対する市民意識の高揚を図る。 事業概要:陶芸関係展示会の開催。陶芸初心者や初級者、中級者を対象とした陶芸教室・体験、および各種講座の開催
前年度までの実施内容と効果	・初心者対象の事業では「日曜陶芸体験」や「チャレンジ!電動ロクロ」、初級者対象の事業では「やきものを始めよう」、中級者対象の事業では「電動ロクロ中級講座」を実施している。また、団体陶芸体験(年10回程度)や夏・冬休みの時期に合わせた親子陶芸体験なども実施している。さらには、外部講師を招いたスタンドグラスやフェルト等の講座も開催している。 ・セラミックアートセンターの広いエントランスロビーを活用して、ロビーコンサートやイベントを年10回程度開催している。 ・陶芸教室等は、概ね7割以上の参加率があり、定員に達する場合も多い。初級・中級者対象の講座にはリピーターの方も多い。 ・ロビーコンサート等では、毎回30~100人の参加者があり、アンケートの内容も概ね好評である。
H27年度の実施内容	【意見募集にあたっての論点】 陶芸講座・教室では、上記の事業内容を見直し、新たに初心者・初級者がステップアップできる下記の講座を開催し、受講者や工房利用者のニーズに応える事業を展開することについて ・【新規事業】ステップアップ!チャレンジロクロ:初心者向け 従来ロクロ体験に、カンナを用いた削りの技法を習得できるメニューを加えた講座 ・【新規事業】陶芸道具づくり講座:初級者向け カンナやヘラなど自分の手に馴染む陶芸道具を作成する講座 ・【新規事業】節句に合わせた置物の制作講座:ミニ兜・こいのぼり ・陶芸作品を鑑賞する展示会の開催 創作食器展(4月~5月):道内の作家が出展する食器展。予約購入も可能 凍土会展(9月):道内産原料を使用する作家の展示会。ミニ茶会も新規に開催予定 【新規事業】こども陶芸展inびえい江別巡回展(11月):道内外の小中学生が制作した作品を展示 工房利用者展(3月):工房利用者が1年間に制作した作品を発表する展示会

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	陶芸指導員報酬	518.8	518.8	538.2	19.4	526.0	△12.2
	講座指導員謝礼等	44.0	51.2	66.9	15.7	53.1	△13.8
	消耗品・印刷製本費	158.2	170.5	160.2	△10.3	152.9	△7.3
	写真撮影委託等	10.5	42.5	33.1	△9.4	27.6	△5.5
	その他の経費		0.7	9.7	9.0	9.3	△0.4
計		731.5	783.7	808.1	24.4	768.9	△39.2
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他	184.4	183.1	198.3	15.2	209.3	11.0
	一般財源	547.1	600.6	609.8	9.2	559.6	△50.2
主な増減理由(前年比)		<ul style="list-style-type: none"> ・新規陶芸講座開催に係る増 ・こども陶芸展inびえい江別巡回展開催に係る増 ・凍土会展ミニ茶会に係る増額 ・その他、経費の見直しによる減額 					
査定内容		<ul style="list-style-type: none"> ・凍土会展ミニ茶会に係る予算計上は見送り ・その他経費の見直しによる査定減 					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	07	生涯学習・文化
取組の基本方針	03	市民スポーツ活動の充実

事業名	学校体育館土曜開放事業
担当課	生涯学習課

目的と事業概要	<p>【目的】 学校週5日制により生じた休日子どもたちが家に閉じこもらず、有意義に過ごし健やかに成長すること。スポーツ少年団等のスポーツ組織へ未加入の子どもたちに対し、スポーツに親しむ機会を提供すること。</p> <p>【事業概要】 1校につき2名の指導員を配置し、長期休業がある月以外の土曜日午前8時30分から正午に市内10小学校の体育館を開放して、子どもたちの自由なスポーツ活動に供するほか、夏季はグラウンドを自由開放する。</p>															
前年度までの実施内容と効果	<p>長期休業以外の毎週土曜日午前8時30分から正午に市内10小学校の体育館を開放し、子どもたちの自由なスポーツ活動(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・ドッジボール・その他軽スポーツ等)に供するほか、夏季はグラウンドを自由開放する。</p> <p>【開放校数】 【開放日数】 【利用者数】 【小学校児童数(全19校)】</p> <table border="1"> <tr> <td>H23年度</td> <td>10校</td> <td>216日</td> <td>3,439人</td> <td>6,397人</td> </tr> <tr> <td>H24年度</td> <td>10校</td> <td>202日</td> <td>3,275人</td> <td>6,194人</td> </tr> <tr> <td>H25年度</td> <td>10校</td> <td>201日</td> <td>2,778人</td> <td>6,065人</td> </tr> </table>	H23年度	10校	216日	3,439人	6,397人	H24年度	10校	202日	3,275人	6,194人	H25年度	10校	201日	2,778人	6,065人
H23年度	10校	216日	3,439人	6,397人												
H24年度	10校	202日	3,275人	6,194人												
H25年度	10校	201日	2,778人	6,065人												
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】 土曜開放の利用促進に関するアイデア募集について 児童数の減少もあるが、全体の利用者数が減少している。10校の開放校のうち、利用が進む学校もあれば、あまり利用されていない学校もあり、利用状況にばらつきもある。多くの児童の利用を得て、有効に実施するためのアイデアなどをいただきたい。</p>															

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】	指導員謝礼	108.9	130.0	119.6	△10.4	119.6	
	指導員保険加入料	3.5	3.9	3.9		3.9	
	スポーツ用具・救急医薬品等	12.0	12.0	11.0	△1.0	11.0	
	計	124.4	145.9	134.5	△11.4	134.5	
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他 一般財源	124.4	145.9	134.5	△11.4	134.5	
主な増減理由(前年比)							
地域活動での小学校体育館の利用増などによる土曜開放の実施日の減少により、現状に合わせて学校開放見込み日数を1校あたり24日から22日に変更したため							
査定内容							

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	08	協働
取組の基本方針	01	協働のまちづくりの推進

事業名	自治会活動支援事業
担当課	市民生活課

目的と事業概要	<p>目的・自治会活動を担う人材の発掘と養成を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「えべつ地域活動運営セミナー」を江別市自治会連絡協議会との共催事業として実施する。 自治会活動の先進事例などを掲載した「自治会マニュアル」の作成と配布
前年度までの実施内容と効果	<p>平成26年度から事業を開始し、以下の内容を実施または予定している。</p> <p>(えべつ地域活動運営セミナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年8月30日(土)午後1時から午後4時、31日(日)午前9時から午後4時の2日間にわたり実施 初日は札幌学院大学の河西教授による基調講演と自治会長の実践談発表 2日目は自治会活動の現地見学及び参加者によるグループ討議を実施 30名の自治会活動に関心のある市民が参加 アンケートでは、81%からこのセミナーが役立つという回答があり、今後に生かしたいとの感想が多かった <p>(自治会活動マニュアル)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会役員向けに他の自治会の活動事例、Q&A、補助金制度について掲載したマニュアルを発行(3月予定)
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>平成27年度事業を下記とおり実施する予定であるが、より効果的な内容とするための意見を募集する。</p> <p>(えべつ地域活動運営セミナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募及び自治会からの推薦により受講者を決定(定員50名を予定。H26は30名) 自治会活動現地見学1回、自治会活動に関する基調講演1回、グループ討議を3回、計5回で実施予定 受講者が参加しやすくするため、土曜日の午後、月1回のペースで開催する。 内容充実のため、H26の計10時間から1日3時間の5日間で計15時間のセミナーとして開催する。 外部団体に開催を委託する。 <p>(自治会活動マニュアル)</p> <ul style="list-style-type: none"> H26に発行したマニュアルについて、変更・追加等の更新を行い、その部分について印刷、自治会に送付する。

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	セミナー開催委託料		15.7	81.5	65.8	4.9	△76.6
	バス借用料			11.0	11.0	10.8	△0.2
	会場使用料			6.1	6.1		△6.1
	マニュアル印刷製本費		26.9	10.0	△16.9	4.0	△6.0
	計	—	42.6	108.6	66.0	19.7	△88.9
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他					15.7	15.7
	一般財源		42.6	108.6	66.0	4.0	△104.6
主な増減理由(前年比)							
(セミナー)		内容の充実を図り、参加者、時間数ともに増加させて実施するため。 30人、10時間⇒50人、15時間に増加					
(マニュアル)		更新部分のみの内部印刷のため減額					
査定内容							
(セミナー)		H26年度はモデル事業として開催したが、まだ1度しか開催していない、効果等を検証する必要があるため、前年同額で査定					
(マニュアル)		印刷ページ数について査定減					

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	08	協働
取組の基本方針	01	協働のまちづくりの推進

事業名	協働を知ってもらう啓発事業
担当課	企画政策部政策推進課

目的と事業概要	将来の市民協働の担い手である小学生に向けて、自治基本条例の基本原則のひとつである「協働」の考え方を啓発する取組みを実施する。
前年度までの実施内容と効果	<p><平成26年度></p> <p>1.啓発用リーフレットの作成 小学生に向け、協働について分かりやすく説明するためのリーフレットを作成</p> <p>2.朝のミニ講座の実施 市内市立小学校全校の4年生及び6年生を対象に、朝学習の時間等を利用して、リーフレットに基づき協働について説明するミニ講座を実施(19校、4年生986名、6年生1,087名)</p> <p>3.市内小学生への啓発 市内商業施設での啓発イベント、小学生団体への啓発講座を実施</p>
H27年度の実施内容	<p>【意見募集にあたっての論点】</p> <p>取組みの見直しについて</p> <p>1.啓発用リーフレットの印刷 平成26年度に作成したリーフレットのデザインを使用し必要数を印刷する。(担任用、学校用予備を含め2,500枚)</p> <p>2.朝のミニ講座の実施 市内市立小学校全校の4年生及び6年生を対象に、朝学習の時間等を利用して、リーフレットに基づき協働について説明するミニ講座を実施する。(19校、4年生917名、6年生1,072名)</p>

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
	リーフレット作成		38.9	21.8	△17.1	19.0	△2.8
	小学生向け啓発事業		83.7	28.1	△55.6	27.6	△0.5
計		—	122.6	49.9	△72.7	46.6	△3.3
財源内訳	国・道支出金						
	市債						
	その他		61.3		△61.3	15.7	15.7
	一般財源		61.3	49.9	△11.4	30.9	△19.0
主な増減理由(前年比)							
							<ul style="list-style-type: none"> リーフレットデザインを前年度に作成したものをより継続して使用することによる作成費用の減 平成26年度の実施状況を踏まえ、事業内容をミニ講座に集約することによる減
査定内容							
							要求段階で10%を見込んでいた消費税について修正、リーフレット必要部数について査定減

平成27年度当初予算(案)パブリックコメント 事業説明書

政策	09	計画推進
取組の基本方針	02	透明性の高い市政の推進

事業名	えべつシティプロモーション事業
担当課	企画政策部政策推進課

目的と事業概要	情報発信の仕組みづくりに取り組む中で、江別の都市イメージの構築を図り、市外在住者の江別市に対する認知度向上と来訪・移住の動機付けに繋げる。 民間の団体とともに設立した「江別シティプロモート推進協議会」において具体的取組を検討しながら進めている。
前年度までの実施内容と効果	「えべつ未来戦略」において「えべつの魅力発信シティプロモート」が位置付けられたことにより、平成26年度から事業をスタートさせた。 平成26年6月に民間の団体とともに「江別シティプロモート推進協議会」を設立し、基本方針を「情報発信の仕組みづくりを重点的に取り組むと同時に江別の都市イメージ構築に向けた取組を進める」とした。 【実施内容】 ・協議会WEBサイトの構築 ・学習会 ・リーフレット作成・配布 ・アンケート調査
H27年度の実施内容	【意見募集にあたっての論点】 平成26年度の実施内容を踏まえて、市民参加を促すなどの取組を実施することについて ・協議会運営経費として、アドバイザーとなる専門家への謝礼、会議開催費、ホームページ運営費、イベントへの出展費用など ・インターネットを使った情報発信を市民運動として展開するために必要な経費として、募集活動、学習会開催、活動拠点となるポータルサイト構築、ソーシャルメディア投稿システム構築、広告費、効果分析等のコンサルティング費用など ・大学在校生らが受験生に対して江別移住を働きかけるリーフレット、札幌の交通不便地域での江別PRチラシの作成と配布にかかる費用として、謝礼、印刷費、配布委託経費など ・その他、各種取組の効果を測るためのウェブアンケートの実施にかかる経費として、調査委託料

(単位:万円)

予算状況		H25決算	H26予算	H27要求	前年比	査定案	増減
【積算内訳】							
協議会運営経費			35.0	42.8	7.8		△42.8
学習会、ソーシャルメディア投稿システム構築、広告費ほか			10.0	390.5	380.5		△390.5
リーフレット等の作成・配布			20.0	53.6	33.6		△53.6
その他			42.6	6.5	△36.1		△6.5
計		—	107.6	493.4	385.8		△493.4
財源内訳	国・道支出金			246.7	246.7		△246.7
	市債						
	その他			100.0	100.0		△100.0
	一般財源		107.6	146.7	39.1		△146.7
主な増減理由(前年比)		取組内容の拡充による増					
査定内容		※国の地方創生交付金対象事業として、平成26年度補正予算で措置するため、当初予算はゼロとした 査定の方針としては次の通り ・ソーシャルメディア投稿システムについては、運営方法や経費負担について検討の余地があり措置しない ・その他については、効果が高いと思われる取り組みに限定して予算措置。補正予算額は130万円程度の見込み					